

全国学力・学習状況調査

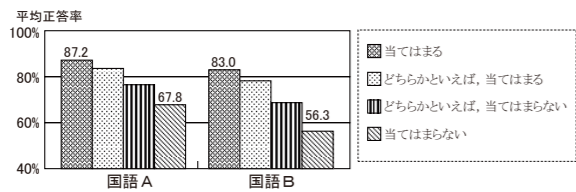
調査結果の活用

結果の集計・分析

- ◇国全体、各都道府県等における調査結果を公表
- ◇児童生徒の学習習慣や生活習慣、学校における指導方法や教育条件の整備状況等と学力の相関関係を分析、公表

◎公表する調査結果の例

◆普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。(小学校)



結果等の提供

- ◇教育委員会及び学校に調査結果を提供するとともに、児童生徒に個人票を提供
(提供する個人票のイメージ) ※答案は返却されません。



- ◇学校における指導改善等に資するよう、解説資料や授業アイデア例等を提供
(授業アイデア例のイメージ)



国において教育の改善に向けた全国的な取組を推進

- ◇調査結果の専門的な分析等を行い、教育指導や教育施策の改善に取り組む
例)学習指導要領の改訂、各種施策の成果の検証・改善 など
- ◇教育委員会や学校の意欲的な改善の取組に対して必要な支援等を行う
例)教員の配置等への支援、改善の取組に役立つ情報の提供、各種施策を活用した支援 など

教育委員会において域内の教育の改善に向けた取組を推進

- ◇調査結果を多面的に分析し、保護者や地域と連携しながら、教育指導や教育施策の改善に取り組む
- ◇学校の改善に向けた取組等に対して必要な支援等を行う
例)教員の配置等の工夫、教員研修の充実、教育指導等の改善のための資料の作成 など

学校において教育指導等の改善に向けた取組を推進

- ◇児童生徒の学力や学習状況を多面的に分析し、教育指導の成果や取り組むべき課題を把握する
- ◇学校の教育指導、児童生徒一人一人の学習状況等の改善に向けて計画的に取り組む
例)明らかになった課題を踏まえた、全学年・全教科における授業改善の取組/児童生徒の学習状況等の改善を図るため、個に応じた指導等を実施/教育指導の改善のための校内研修の実施 など
- ◇保護者や地域と連携しながら、学習習慣や生活習慣等の改善に取り組む
例)家庭における学習習慣や生活習慣の確立に向けて保護者に働きかけ/地域のボランティア等の協力による、放課後等における補充学習の実施 など

教育における継続的な検証改善サイクル(PDCAサイクル)を確立

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等(教育委員会、学校法人等)の協力を得て実施するものです。

平成24年度調査実施日: 4月17日(火)

※調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

※調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

※調査内容

- ①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
 - ・主として「知識」に関する問題
 - ・主として「活用」に関する問題
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

※調査方式

平成24年度調査は、抽出調査及び希望利用方式で行います。

抽出調査	希望利用方式	【国全体】 【国・公・私立学校別】 【都道府県(公立)別】
<ul style="list-style-type: none"> ・学校単位でのランダム抽出 ・全国の抽出率約30% ・都道府県毎に平均正答率が95%の確率で誤差1%以内となるよう抽出率を設定 ・都道府県毎に抽出率は異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出調査対象外の学校は、学校の設置管理者の希望により、調査を利用することができる ・文部科学省において、国費により、問題の作成、印刷及び学校への配送を行う ・採点等は、学校の設置管理者の責任で行う 	の学力等の状況を把握
	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出調査対象校にならなかった学校についても、学校の設置管理者の希望により、児童生徒の学力等の状況を把握することができる ・市町村や学校におけるより詳細な学力等の状況を把握可能 	

事業の一部(調査問題の発送・回収、採点・集計等)は、文部科学省が民間機関に委託して実施。

(参照: 文部科学省HP) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

※ 調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 <p>など</p>

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少人数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

※ 出題の内容例

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
〔国語A〕 <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書き、言葉の意味 目的や場面に応じた言葉の使い方 情報を整理してまとめること 文章の内容などに関する情報の取り出し <p>など</p>	〔国語B〕 <ul style="list-style-type: none"> 伝えるべき内容を整理して、文章に表現すること 筆者の主張を評価したり、表現を工夫しながら自分の考えを書いたりすること 文章やグラフ・図表等を読んで、意見をまとめること <p>など</p>
〔算数・数学A〕 <ul style="list-style-type: none"> ＋、－、×、÷、（ ）の演算順序を意識して正しく計算すること 図形の性質を理解し、角度や面積などを求めること グラフから変化の様子を読み取ること 確率の意味を理解し、求めること <p>など</p>	〔算数・数学B〕 <ul style="list-style-type: none"> 図やグラフから必要な情報を分類、整理、比較するなどして、問題の解決に役立てること 問題の中から規則性を見つけて、考え、表現すること 実生活などの様々な場面における数量やデータを比較、整理し、自分の考えを分かりやすく説明すること <p>など</p>
〔理科〕 ※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。 <ul style="list-style-type: none"> 自然についての基本的な知識に関すること 観察や実験の技能に関すること 自然や実生活に、理科の知識や技能を当てはめて考えること 観察や実験の結果を考察すること 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や実生活の中に問題を見だし、予想や仮説に基づいて観察や実験を計画すること 理科の知識や技能に基づいて、予想や考察などを検討したり改善したりすること <p>など</p>

※ 時間割

※問題冊子等の配付、解答用紙の回収等については、各時限中、解答時間の前後で行う。

◎小学校

1時限目 (45分)	2時限目 (45分)	3時限目 (45分)	4時限目 (45分)	
国語A (20分) 算数A (20分)	国語B (40分)	算数B (40分)	理科 (40分)	児童質問紙 (20分程度)

※児童質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

◎中学校

1時限目 (50分)	2時限目 (50分)	3時限目 (50分)	4時限目 (50分)	5時限目 (50分)	
国語A (45分)	国語B (45分)	数学A (45分)	数学B (45分)	理科 (45分)	生徒質問紙 (20分程度)

※生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

※ 問題例：平成23年度全国学力・学習状況調査より

中学校・国語B冊子 図表を用いた文章を読む(ピクトグラム)

1 浅井さんは、学校図書館で次の「ピクトグラム」について書かれた文章を見付けました。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

ピクトグラムについて書かれた文章

右は、非常口によく見かける表示である。これは、伝えたい事柄を絵や図などを用いて表現した「ピクトグラム」と呼ばれるもので、公共施設を中心に多く見られる。文字による説明ではないため、言葉の壁を越えて、だれでも素早く情報を得ることが可能である。デザインも単純化されているものが多い。例えば、非常口のピクトグラムは、人が外に出ようとしている様子によって、「非常口」の場所を示している。

このような特徴をもつピクトグラムには、デザインにおいて、さらにいくつかの配慮がなされている。ここでは、二つ紹介する。

①のピクトグラムは、フォークとナイフの絵で「レストラン」を示している。食事場所を探している人には役立つ表示であるが、宣伝や広告などは違い、食事をしたいという気持ちにさせるものではない。必要なものを入れずに、フォークとナイフの絵だけでレストランがあるという情報を伝えている。つまり、必要な情報のみが伝わるよう配慮がなされているのである。

②は、「くず入れ」を示すピクトグラムである。捨てられるゴミをそのままの形で表現するのではなく、複数の四角形で表していることに注目したい。ピクトグラムは、見る人に不快感を与えたり、その場の雰囲気壊したりしない配慮がなされていることが分かる。

三 浅井さんは、学校図書館のピクトグラムを作成しようと思い、その候補として次のアとイを考えました。あなたなら、どちらのピクトグラムを採用するのがよいと考えますか(どちらのピクトグラムを選んでもかまいません)。あなたの考えとその理由を、あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 アとイのピクトグラムを比べて書くこと。
条件2 アのピクトグラムについて書かれた文章の中にある、特徴や配慮についての記述を使って書くこと。
条件3 3文で書くこと。

ア

イ

① レストラン

② くず入れ

●出題の趣旨
説明的な文章と図との関連を考えながら、次のことができるかどうかをみる。

・書かれている情報を基に、自分の考えを論理的に書くこと

小学校・算数B冊子 図の解釈と判断の根拠の説明(音符)

2

かずきさんは、音楽の時間に音符の長さについて調べました。すると、次のきまりがあることがわかりました。

付点音符の長さは、もとの音符の長さの1.5倍です。

このきまりをもとに、4分音符(♪)の長さを目もり2つ分とみると、付点4分音符(♪)の長さは、その1.5倍なので目もり3つ分とみることができます。

このことを図に表すと、2つの音符の長さの関係は、下のようになります。

音符の長さの関係

4分音符 ♪ 目もり2つ分

付点4分音符 ♪ 目もり3つ分

(1) 2分音符(♪)の長さは、8分音符(♪)の長さの何倍ですか。答えを書きましょう。

(2) 今度は、2分音符(♪)と付点2分音符(♪)の長さの関係を図に表します。

2つの音符の長さの関係を正しく表している図を、下のアとイから1つ選んで、その記号を書きましょう。また、選んだ図が正しいわけを目もりの数と言葉を使って書きましょう。

ア

イ

●出題の趣旨
数量関係が図で表された場面で、次のことができるかどうかをみる。

・2量の関係を倍で表現すること

・示された例を基に正しい図を判断し、その判断の理由を数学的に表現すること

※掲載している問題例は平成23年度全国学力・学習状況調査より抜粋。(平成23年度は4月の調査の実施を見送り、9月下旬に問題冊子等を配布。) 全問題については、(http://www.nier.go.jp/11chousa/11mondai.htm)を参照。